

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 9 日現在

機関番号：32629

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2020

課題番号：15K02226

研究課題名(和文) 神と仏をめぐる和歌の包括的研究

研究課題名(英文) Comprehensive Study on Waka of Japanese Deities and Buddha

研究代表者

平野 多恵 (HIRANO, Tae)

成蹊大学・文学部・教授

研究者番号：60412996

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：主な成果は以下の4点である。

勅撰和歌集の釈教歌と神祇歌を讀解し、その特徴を分析した。釈教歌や神祇歌の入集や配列には、勅撰和歌集の撰集を命じた天皇の意向や信仰、社寺との関わりが反映していることを明らかにした。僧侶の和歌、特に明恵と夢との関わりを分析した。室町時代から江戸時代までの歌占本をできるかぎり網羅的に調査し、その系譜と特徴を明らかにした。和歌をもちいたおみくじに着目し、江戸時代以降の歌占本や各地の神社に蔵されている和歌おみくじの版木や資料を調査した。和歌のおみくじと漢詩のおみくじの関係や相違を分析し、江戸時代から現代までのおみくじや歌占本に見られる和歌の特徴を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

古典和歌の研究は従来、貴族を中心とする王朝和歌に関するものが主流であった。本研究はそのような中で、和歌の起源の伝承とかかわる神の歌に注目し、そこから神仏と和歌の関係性にアプローチした。神仏と和歌との関連は、現代でもおみくじの中に名残をとどめており、その点から現代とも関わる魅力的なテーマである。神や仏と和歌の関わりを明らかにすることは、聖なる存在と和歌、そして人がどう関わったかに迫るものとして意義がある。

研究成果の概要(英文)：The three main results are as follows.

I analyzed the characteristics of shakyo-ka and jingi-ka in the Imperial Waka Anthology. It became clear that the inclusion and arrangement of shakyo-ka and shingyo-ka reflect the intentions of the emperor who ordered the compilation of the Imperial Waka Anthology, as well as his beliefs and relationships with shrines and temples. An analysis of the relationship between the monk Myoe and his dreams and waka poetry. I surveyed Waka divination books from the Muromachi period to the Edo period, and clarified their genealogy and characteristics. I focused on Omikuji based on waka poems, and investigated Waka Divination books since the Edo period and waka Omikuji woodblocks kept at shrines in various regions. In addition, we examined the relationship and differences between waka Omikuji and Chinese poem Omikuji, and classified waka features on Omikuji and Waka Divination books from the Edo period to the Meiji period and up to the present day.

研究分野：日本文学

キーワード：和歌 おみくじ 歌占 神詠 託宣 神祇歌 釈教歌 勅撰和歌集

1. 研究開始当初の背景

日本中世において神と仏とは相互補完的な関係にあり、車の両輪のように社会を支えていたと考えられる。こうした神仏の役割は和歌の世界にも影響を与えていたという仮説を立てた。

勅撰和歌集において、第七勅撰集として企図された藤原清輔撰『続詞花集』(永万元年 1165 年成立)で「釈教」と「神祇」の部が初めて独立し、続く『千載集』でも両部がセットで置かれた。さらに、『千載集』成立前に編まれた賀茂重保撰『月詠和歌集』(1182 年)も神祇・釈教部を備え、比叡山僧の僧による『玄玉集』(1191 年頃成立)は、冒頭に神祇、末尾に釈教を置く。これは、この時代に釈教と神祇がどちらも必要とされたことを示していると考えられる。

藤原清輔による歌学書『袋草紙』(1157 年頃成立)には「希代歌」として仏菩薩や神の歌がまとめて収められている。ちょうどこの頃から、住吉社歌合(1170 年)をはじめとする神社社頭における歌合や、御裳濯河歌合(1187 年)、五社百首(1190 年)といった西行や俊成による神社への奉納歌合等、神祇関連の和歌行事も盛んに行われるようになった。

仏教でも、仏典の経句を題として詠む法文歌が同じ院政期に流行した。この時期に題詠の方法の一つとして百首歌が一般化し、久安六年(1150)の『久安百首』で初めて「釈教」五首が出題され、様々な釈教五首が試みられた。これ以降、『千載集』『新古今集』に至ると釈教部に 50 首以上の釈教歌が収められた。

このように、神と仏をめぐる和歌は、その隆盛が連動していると思われるが、それらに関する研究は、その多くが俊成、西行、慈円を中心にこれまで個別に行われており、神と仏を関連づけて統合的に把握しようとした論文は少ない。

そうしたなか、申請者はこれまで寺院文化圏における詠歌活動の実態、勅撰和歌集の釈教部の思想的背景、僧侶歌人の詠歌活動等について研究を進めてきた。そして、その中で、僧侶における詠歌の意義や和歌と仏教の関わりをより本質的に解明するには、当時の思想的背景や社会構造、政治的な状況を十分にふまえ、神と仏と和歌との関わりを多角的に把握する必要を感じるようになり、本研究に至った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、和歌と神と仏とが深く絡みあう平安後期から室町時代を主たる対象として、和歌と神と仏との関わりを検討し、なぜ神や仏の和歌が当時の社会で必要とされたかを明らかにすることである。それに伴い、僧侶がなぜ和歌を詠んだか、神仏の託宣歌が後代にどのような意義を持ったかについても検討し、和歌と仏教と神祇との関係性を多面的・具体的に描き出し、信仰の場が生み出す和歌の特質や意義を明らかにする。

3. 研究の方法

日本では、天皇や貴族はもちろん神や仏も和歌を詠んだ。第一勅撰集『古今集』仮名序には神であるスサノオノミコトが三十一文字の和歌を詠みはじめたと書かれる。神の存在は和歌の成立に関わって重要だが、神に関わる和歌は従来十分に研究されていない。平安後期には和歌が仏教を積極的に取り込んで釈教歌というジャンルが生まれたが、この時期には神の託宣歌や神に関わる神祇歌も多く生み出された。釈教歌と神祇歌の隆盛は無関係ではなく、どちらも時代の要請によるものと考えられる。

本研究では以下の 1 ~ 4 の異なる視点から、神と仏をめぐる和歌を多角的に調査分析した。それによって、院政期から中世にかけて、神祇と仏教と和歌がどのように関わり合ったかを明らかにし、和歌が果たした役割を解明した。さらにはおみくじや和歌占いにおける神仏の託宣歌にも注目し、そのありようの実態について研究を進めた。

1 勅撰和歌集および続詞花和歌集における釈教歌・神祇歌を丹念に読解・分析し、それらの関連や特徴を明らかにしたうえで、その背後に潜む当時の思想および政治的状况を検討した。勅撰集の中でも、はじめて勅撰和歌集として釈教・神祇の部立を設けた『続詞花和歌集』、『千載和歌集』の神祇歌・釈教歌、後宇多院の命になる『新後撰和歌集』『続千載和歌集』の釈教部にとくに注目して分析した。

2 神と仏と和歌との関係を探求する上で鍵となる僧侶の歌に注目し、思想や信仰から生まれる新たな表現のあり方や僧侶における神と仏をめぐる信仰、人々が僧侶に求めたものを明らかにした。具体的には、明恵をめぐる託宣と奇瑞に着目し、文学を生み出す場のありようを考察した。

3 神社における歌合など神社に関わる和歌活動を分析し、神社における神仏習合的な文芸活動のありようを検討した。具体的には 1 の勅撰和歌集における神祇歌の分析と連動して研究を進めた。

4 神仏の託宣歌の系譜をたどり、神仏への信仰と関連して和歌がどのような役割を果たした

かを明らかにした。神楽歌、呪歌、歌占やおみくじの和歌など、検討の射程を江戸時代から近現代にまで広げ、神仏の託宣という軸でつながる和歌の系譜を解明した。和歌占いやおみくじの献研究は資料収集も十分になされていないため、各地に蔵される御籤本や占書など関連する文献をできるかぎり調査・収集し、研究の基礎をつくった。

4. 研究成果

上記の 1 ~ 4 に即して成果をまとめる。

1 勅撰和歌集・私撰和歌集における釈教歌・神祇歌を丹念に読解・分析し、それらの関連や、その背後に潜む当時の思想および政治的状況を明らかにした。勅撰和歌集の神祇歌・釈教歌は個別に研究されてきたが、この二つの部立は同時に立てられたもので関わりが強い。『千載和歌集』以後の勅撰和歌集における「神祇歌」「釈教歌」をあわせて分析し、各集の編纂意図や為政者や撰者を取り巻く政治的・宗教的な状況をふまえながら、勅撰和歌集における神祇部・釈教部が神仏あわせて国を守護する意識があった可能性を見出した。この結果、はじめて釈教歌と神祇歌を部立として独立させた『続詞花和歌集』の重要性が明らかになった。

この成果はコロンビア大学で 2019 年 3 月開催の国際シンポジウム「Borders, Performance, and Deities (境界、芸能、神仏)」において「勅撰和歌集における神祇歌・釈教歌 託宣歌の分析を中心に Kami Poems and Buddhist Poems in Imperial Waka Anthologies」として口頭発表した。この成果は 2021 年に国際誌に掲載される予定である。

釈教歌については、後宇多院の命になる『新後撰和歌集』『続千載和歌集』における釈教部の構成を詳細に検討した。両集の釈教部は、従来の勅撰集における釈教歌とは異なり、真言密教重視の傾向があることを見出した。『続千載集』の釈教歌は後宇多院詠をはじめとする密教歌群が冒頭に置かれる他、院の宗教政策を支える密教僧の歌も収められている。勅撰集における釈教歌の選歌や構成は後宇多院による密教興隆の一表現と捉えられる可能性を示し、釈教部における宗教性と政治性を明らかにした。この研究成果は「中世後期勅撰集の釈教歌 『新後撰和歌集』『続千載和歌集』の宗教性と政治性」、『国語と国文学』2015 年 5 月としてまとめた。

女性における釈教歌の研究もおこない、「釈教歌と女性」(『東アジアの女性と仏教と文学』2017)としてまとめた。

1 3 4 に関連する成果として、神と人をつなぐ和歌として、神から人への託宣歌、人から神への奉納和歌の流行、神楽や占いの場で神を招き寄せるための呪歌・神歌に着目した研究をおこなった。これを通して神と人のコミュニケーションを媒介する和歌の具体的な機能を明らかにした。さらに、神と人に限らず、和歌は身分や国などの境界を越えて異質のものを橋渡しする共通言語であったことを指摘した。この成果は、EASJ2017 (15th International Conference of the European Association for Japanese Studies Lisbon, August 30 - September 2, 2017)において、「神と人をつなぐ和歌 託宣・奉納・呪歌・神楽 POETRY THAT CONNECT HUMANS AND GODS: ORACLES, OFFERINGS, INCANTATIONS, AND ENTERTAINING THE GODS」として口頭発表した。

2 僧侶の文学的営為と和歌とのかわりについては、鎌倉時代の僧侶・明恵にフォーカスして研究を進めた。釈教歌についての成果は「縁起難思の出会い 明恵から釈教歌へ」(『国文学踏査』28号、2016)にまとめた。さらに明恵の夢における和歌の位置付けを考える前提として、明恵の夢の記録を網羅的に調査し、研究の基盤をつくった。その成果は仏教文学会 2015 年 6 月例会で「明恵上人夢記」をめぐる研究の可能性」として口頭発表し、「明恵「夢記」研究の現在」、『仏教文学』第 41 号や「明恵「夢記」研究の地平」(『夢と表象 眠りとこころの比較文学史』勉誠出版 所収)として論文にまとめた。

さらに明恵における春日明神の託宣に注目し、神の託宣をめぐる逸話が明恵を主人公とする物語を生み、それが謡曲「春日竜神」につながる背景を明らかにした。この成果は、2016 年 5 月の中世文学会シンポジウム「文学の生まれる ところ」で「明恵をめぐる夢と奇瑞と信仰の磁場」として発表し、『中世文学』62 号に「明恵をめぐる奇瑞と信仰の磁場 白上峰の文殊顕現と春日明神の託宣」として論文が掲載された。

明恵と和歌との関わりを「天竺」という場の問題からも検討した成果に「明恵の天竺幻想」(小峯和明編『東アジアの伝文学』勉誠出版)もある。

4 神とつながる和歌については、神の託宣歌の系譜につらなる「歌占」とおみくじの研究について研究を大きく進めた。神の託宣歌は、室町時代には和歌占いの形に進展した。当時の和歌占いの様子は、室町時代につくられた御伽草子などにも描かれている。神の託宣歌から歌占への系譜を辿り、「歌占の世界」(『書物学』5、2015)、「室町時代の和歌占い 託宣・呪歌・歌占」(『もう一つの日本文学史』勉誠出版、2016)、「神が降りる、神と遊ぶ 歌占の世界」(『日本人はなぜ、五七五七七の歌を愛してきたのか』所収、2016、笠間書院)、「神おろしの呪歌」(西尾市岩瀬文庫展示図録『越境する絵ものがたり』、2016)としてまとめ、「おみくじから歌占、託宣歌へ」(国際日本文化研究センター、2017)で口頭発表した。

さらに、記紀神話の時代から明治時代までの神の託宣歌や和歌占い(歌占)の資料を幅広く収集・分析し、とく歌占本の成立と系譜を具体的に明らかにした。この研究成果は 2016 年 5 月 28 日に日仏会館開催の説話文学会例会のシンポジウム「占いと説話」において「歌占の系譜 託宣から占いへ」として発表した。この発表を経てさらに分析を深めた成果を「歌占本の系譜 託

宣歌から占いへ」(『説話文学研究』51号、2017)として論文化した。この研究によって、平安時代以来の託宣歌が、室町時代から江戸時代にかけての歌占本に取り込まれていることが判明した。現存する歌占本をできるかぎり調査したことで、歌占本の系統が明らかになり、歌占本の歴史的な位置付けが可能になった。

託宣歌に関連して、日本全国の社寺のおみくじの歌、江戸時代から明治時代にかけての和歌占いの歌を読み解き、注釈的な研究を進めた。長野県立図書館蔵『戸隠神社御籤文』と国立国会図書館蔵新城文庫蔵『おみくじ集』を調査し、その成果を「おみくじの近代 和歌・明治維新・新城文庫」(『愛知県立大学文字文化財研究所紀要』第2号、2016年3月発行)としてまとめた。

江戸時代の和歌占い本『晴明歌占』(成蹊大学蔵)については、最上稲荷妙教寺(岡山県)の和歌みくじについてほとんどの和歌が共通することを見出した。詳細な分析により、法華経の經句と和歌を並記する最上稲荷のおみくじが江戸時代からの神仏集合の信仰を反映したおみくじであることをはじめて明らかにした。その成果は「最上稲荷のおみくじにおける和歌 江戸の和歌占い本『晴明歌占』との関係」(『成蹊人文研究』28号、2020)としてまとめた。

歌占本については、早稲田大学図書館九曜文庫蔵『源氏歌占』と関連する資料の調査も行った。

『源氏歌占』は易占と源氏物語の和歌が融合した江戸末期の歌占本である。その内容を分析した結果、源氏物語のカルタや梗概書、源氏香との関連を明らかにするとともに、易占を源氏物語に当てはめる際の工夫を指摘し得た。さらに、源氏物語に関連する占い本として、江戸後期写本『源氏歌占』(『研優社 平成二十六年秋期古書目録』125掲載)、立正大学所蔵『源氏物語占ひ』、富井楠次郎編『源氏遊びうた占』(国立国会図書館デジタルコレクション所収)の存在を見出した。

これらの成果を「源氏物語と占い」(『源氏物語』と日本文学史』風間書房、2021年3月)としてまとめた。上記の歌占本を紹介するとともに、源氏物語における占いのあり方から現代における源氏物語関連の占いまで概観している。本研究によって、源氏物語を例に、和歌と既存の占いとの結びつきのありかたを具体的に明らかにできた。

上記の調査の過程で、これまで見過ごされてきた陰陽道と和歌占いの関連を見出しつつある。現在も和歌占い・和歌みくじに関連する資料を収集・分析を継続しているが、その一部を『おみくじの歌』(笠間書院、2019)として刊行した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 平野多恵	4. 巻 28号
2. 論文標題 最上稲荷のおみくじにおける和歌－江戸の和歌占い本『晴明歌占』との比較－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 成蹊人文研究	6. 最初と最後の頁 1 - 13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 平野多恵	4. 巻 62号
2. 論文標題 明恵をめぐる奇瑞と信仰の磁場－白上峰の文殊顕現と春日明神の託宣－	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『中世文学』	6. 最初と最後の頁 13 - 23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野多恵	4. 巻 52号
2. 論文標題 歌占本の系譜 託宣歌から占いへ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『説話文学研究』	6. 最初と最後の頁 94-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野多恵	4. 巻 62号
2. 論文標題 「明恵をめぐる奇瑞と信仰の磁場 白上峰の文殊顕現と春日明神の託宣」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『中世文学』	6. 最初と最後の頁 不明
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野多恵	4. 巻 51
2. 論文標題 「歌占本の系譜 託宣歌から占いへ」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『説話文学研究』	6. 最初と最後の頁 1, 12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野多恵	4. 巻 41
2. 論文標題 「明恵「夢記」研究の現在」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『仏教文学』	6. 最初と最後の頁 43, 47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野多恵	4. 巻 92-5
2. 論文標題 中世後期の勅撰和歌集における釈教歌	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 128-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野多恵	4. 巻 2号
2. 論文標題 おみくじの近代 和歌・明治維新・新城文庫『おみくじ集』	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 愛知県立大学文字文化財研究所紀要	6. 最初と最後の頁 3-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 平野多恵	4. 巻 5
2. 論文標題 歌占の世界	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 書物学	6. 最初と最後の頁 42-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野多恵	4. 巻 28
2. 論文標題 縁起難思の出会い 明恵から釈教歌へ	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 国文学踏査	6. 最初と最後の頁 12-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 平野多恵
2. 発表標題 勅撰和歌集における神祇歌・釈教歌—託宣歌の分析を中心に— <i>Kami Poems and Buddhist Poems in Imperial Waka Anthologies</i>
3. 学会等名 コロンビア大学 / 名古屋大学共催国際シンポジウム「Borders, Performance, and Deities 境界、芸能、神仏」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平野多恵
2. 発表標題 "Poetry that Connect Humans and Gods: Oracles, Offerings, Incantations, and Entertaining the Gods"
3. 学会等名 EJS2017 Conference in Lisbon (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平野多恵
2. 発表標題 「歌占の系譜 託宣から占いへ」
3. 学会等名 説話文学会第163回例会、シンポジウム「占いと説話」（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 平野多恵
2. 発表標題 「明恵をめぐる夢と奇瑞と信仰の磁場」
3. 学会等名 平成28年度 中世文学会春季大会、シンポジウム「文学の生まれる ところ」（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 平野多恵
2. 発表標題 『明恵上人夢記』をめぐる研究の可能性
3. 学会等名 仏教文学会（招待講演）
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 木谷真理子・吉田幹生編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 276
3. 書名 『源氏物語』と日本文学史（第九章「源氏物語と占い」担当）	

1. 著者名 平野多恵	4. 発行年 2019年
2. 出版社 笠間書院	5. 総ページ数 115
3. 書名 おみくじの歌	

1. 著者名 小峯和明編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 333
3. 書名 『東アジアの伝文学』 「明恵の天竺幻想」	

1. 著者名 張龍妹・小峯和明編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 832
3. 書名 『東アジアの女性と仏教と文学』 「釈教歌と女性」	

1. 著者名 錦仁 編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 笠間書院	5. 総ページ数 17
3. 書名 『日本人はなぜ、五七五七七の歌を愛してきたのか』 所収 「神が降りる、神と遊ぶ 歌占の世界」	

1. 著者名 平野多恵	4. 発行年 2016年
2. 出版社 あるむ	5. 総ページ数 1
3. 書名 西尾市岩瀬文庫展示図録『越境する絵ものがたり』、コラム「神おろしの呪歌」	

1. 著者名 平野多恵	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 26
3. 書名 『夢と表象 眠りとところの比較文学史』所収「明恵「夢記」研究の地平」	

1. 著者名 平野多恵	4. 発行年 2016年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 284
3. 書名 もう一つの日本文学史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------